地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

近江発、朝鮮通信使本

ユネスコ記憶遺産登録に向けた日韓共同事業と近江に残る「朝鮮人街道」

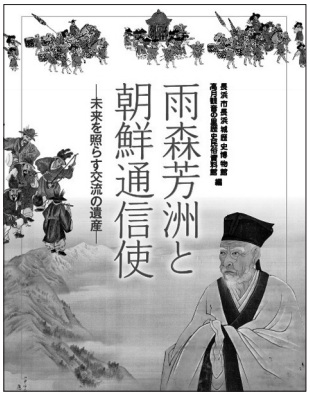
文・サンライズ出版　専務取締役　岩根治美

日韓国交正常化50周年を迎えた本年の9月から滋賀県長浜市では企画展「雨森芳洲と朝鮮通信使～未来を照らす交流の遺産～」が長浜城歴史博物館（10月18日まで）と高月観音の里歴史民俗資料館（10月25日まで）の2会場で開催されています。これは朝鮮通信使に関する資料をユネスコ記憶遺産登録に向けて日韓共同で推進している事業のひとつでもあります。

日本側の登録リストの中心として挙げられるのが、「雨森芳洲関係資料」（重要文化財）と、「雨森芳洲文庫資料」（長浜市指定文化財）で、いずれも芳洲の顕彰団体である芳洲会が所有し長浜市が管理しています。

長浜市では企画展、シンポジウムなどにより、朝鮮通信使の概要や雨森芳洲がめざした「誠信」の心を全国に向けて発信していくとのことです。

長浜城歴史博物館の図録は平成15年から展覧会場での販売の他、小社が発売元として書店での流通を担ってきました。この記事が掲載される頃は既に会期が終了しているかもしれませんが、企画展を逃した方は書店でご購入いただけます。



『雨森芳洲と朝鮮通信使—未来を照らす交流の遺産』企画・編集長浜市長浜城歴史博物館・高月観音の里歴史民俗資料館／ISBN978-4-88325-578-8／1800円（税別）

●雨森芳洲について

さて、対馬藩に仕えた儒学者・雨森芳洲は、日朝外交担当として、正徳元年（1711）と享保3年（1718）の朝鮮通信使に随行し、対馬と江戸を往復しました。芳洲は日本で初めての朝鮮語入門書である『交隣須知（こうりんすち）』を始めとする16冊の入門書を纏める一方、対馬で朝鮮語通詞の養成所を設置しました。

また61歳の時、対馬藩主に宛てた朝鮮外交指針書『交隣提醒（こうりんていせい）』では「互いに欺かず争わず」「誠信の交わり」という相互信頼を説いています。平成2年に来日した韓国の盧泰愚（ノテウ）大統領は「誠意と信義の交際を信条とした人」として芳洲を称賛したことから、それを機に多くの人々が芳洲の事績に注目するようになりました。

●芳洲ゆかりの雨森地区の活動

それでは、なぜ芳洲の資料が長浜市にあるのかと、不思議に思われる方もあろうかと思います。その理由は大正時代に遡ります。

当時、郷土の偉人について調べていた尋常高等小学校の校長が雨森芳洲のことを知り、浅井家に仕えた雨森氏一族ではないかと思い、対馬の郷土史家や芳洲のご子孫と連絡を取りました。すると、芳洲自筆の史料に「北近江の雨森村が一族の本貫地である」と記されていることがわかったのです。当時芳洲の事績は余り知られておらず、位階も贈られていなかったことが判明し、各方面に働きかけて贈位申請を行い、大正13年、芳洲に従四位が追贈されました。

これを機に偉業を顕彰する目的で滋賀県伊香郡（現・長浜市）を挙げて「芳洲会」を設立、後に東京に住むご子孫より関係資料が「芳洲会」に一括寄贈されたのです。資料は現在高月観音の里歴史民俗資料館で保管されています。

昨今、街のあちこちでハングル語の案内表示を見かけますが、雨森地区には数十年前からハングル語の案内看板が立てられています。芳洲会が雨森地区に開設した雨森芳洲書院は、1984年「東アジア交流ハウス雨森芳洲庵」として建て替えられ、1988年からは韓国の中・高校生を招いて、ホームスティの受け入れをするなど日韓草の根国際交流を実践しています。

●朝鮮通信使との交流

使節団は三使の他、学者、文人、書家、医師、楽隊、曲芸師なども随行しており、異国からの一行の行列を見ようと、沿道には多くの民衆が集まり、また宿泊先には近隣の知識人が集って、筆談による交流を持ったといいます。滋賀県でも、宿泊先となった寺院などに、通信使の書画が残されています。

●「朝鮮人街道」の道探し本

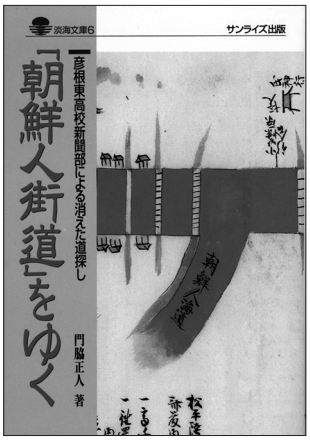
さて、小社では平成7年『「朝鮮人街道」をゆく』を刊行しました。この

本は彦根東高等学校新聞部が、前述の盧泰愚大統領来日の年に「朝鮮人街道」を調査し、その全体地図を掲載した新聞を元に、当時新聞部の顧問だった門脇正人先生が執筆した本です。

滋賀県には、江戸時代、朝鮮通信使が通った道があります。それは中山道守山宿から東へ野洲川を越えた少し先の行畑から分かれて近江八幡、安土、彦根と琵琶湖寄りに進み、鳥居本宿で中山道と合流する約40キロの街道です。この道は関ケ原の戦いに勝った家康が上洛した吉例の道でもあります。

本書は聞き取り調査をして、通信使が巡行した旧道を丹念に調べ上げた地図と沿線の紹介、そして通信使の歴史と通信使が見た近江の印象、新聞部の活動をまとめています。

刊行の前年、平成6年に「朝鮮通信使縁地連絡協議会」が設立されたこともあったためか、県外での反響も大きく、初版2000冊はわずか1カ月で増刷、総売上部数8000冊のロングセラーとなりました。



『「朝鮮人街道」をゆく』門脇正人著／ISBN978-4-88325-108-7／971円（税別）

●再び誠意と信義の交わりを

古くから朝鮮との繋がりが多く、また雨森芳洲ゆかりの近江から刊行した朝鮮通信使に関する2冊の本が、両国友好の時代を知る一助になればと思っています。そして「善隣交流の歴史―朝鮮通信使に関する記録―」がユネスコ記憶登録遺産となること、また芳洲の説いた「誠信の交わり」が再び始まることを願っています。

＊

（いわね　はるみ／サンライズ出版専務取締役　岩根治美）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

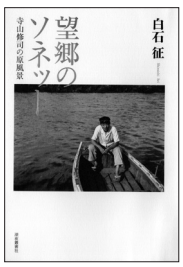
『ライフ・トーク　ー学生たちと歩いて聞いた坂之上の35名』●ジェフリー・S・アイリッシュ／橋口博幸著

鹿児島市坂之上。どこにでもある平凡なベッドタウン。その町の鹿児島国際大学で、まちづくりや民俗学を教えるアメリカ人の著者。それまで南薩摩や大隅の集落をフィールドにしてきたが、2年前から、自分たちの拠って立つ町をゼミ生と歩き、市井の暮らしにカメラを向け、個人の体験、歴史を聞くことを始めた。鍼灸師、焼鳥屋、牧場主、自転車屋、島唄歌手、住職、保育園園長、会社員、介護施設長、自動車整備工場主、農協女性部顧問、窯元、幼稚園バス運転手、農民、ピアニスト、美容師、霊能者等など。83歳の老人会長、日々思うことは、「寂しい町にならいためにどうすればいいか」。毎週町に出た学生たちは、新鮮な発見や出会いに興奮して戻って来る。

主体はあくまでも学生。彼らが築いて繋がりのできた人々を、竹文化研究家の協力者と補足の聞き書きをし、撮影する。大学と地域との関係構築ではなく、人として地域の「魂」に触れる体験であることに感動する。

◆3024円・A5判・351頁・**南方新社**・鹿児島・2015/8刊・ISBN9784861243240

『望郷のソネット　ー寺山修司の原風景』●白石　征著



歌人、劇作家として「天井桟敷」を主宰したのみならず、俳人、詩人、映画監督など八面六臂の活躍を見せ、今もなお各ジャンルに色濃く影響を残している寺山修司。47才という早過ぎる死であったが、今年生誕80年を迎える。

著者は新書館に入社後、編集者として18年間寺山と交流を深め、多くの寺山本を手がけた。没後も俳句全集や著作集などを編集するが、退社後は演劇の世界に転身し、テキストに寺山の作品を選び、ラジオやテレビドラマを使用して演劇化していくプロセスを体験し、演劇のあり方を模索してきた。寺山の多彩な活動を間近に見てきた著者ならではの視点で書かれた書籍や雑誌やＣＤに寄稿した文から精神的孤児としての孤独や悲しみが浮かび上がる。

中世に流布した説教節などの素材を現代に通底させた“遊行かぶき”を提唱している著者だが、それを支えているのも寺山の原風景であり、彼の存在感が際立っている。

◆2592円・四六判・259頁・**深夜叢書社**・東京・2015/8刊・ISBN・9784880324241

『占領下の新聞　－別府からみた戦後ニッポン』●白土康代著

GHQの日本占領期、日本国内においては出版物などは検閲の対象となりました。そして1949年秋まで続いたこの検閲は膨大な資料の山を残しました。これらの資料はその後アメリカへ渡り、その保存に尽力した人物の名をとり、プランゲ文庫と呼ばれています。本書はその資料から、大分県別府市で発行された新聞を紹介していきます。別府は太平洋戦争では戦災を受けず、戦後は周辺から大量の人が流れ込んできました。今でこそ別府は観光都市という印象が強いですが、紙面からはそれだけではない別府の繁栄振りが伝わってきます。一方で歓楽街ならではの怪しげなニュースや、引揚者など戦争の影を感じさせる記事も多く含まれています。このころ別府市内で発行されていた新聞が50以上あったというのも驚きです。戦後の混乱期を生き抜こうとする逞しさと、戦争が終わり新しいことが始まるという希望が混じりあった、当時の別府の街に充満していたエネルギーが強く感じられます。

◆2268円・A５判・222頁・**弦書房**・福岡・2015/8刊・ISBN9784863291249

『写真集　老農　－北上高地の生　４０年の記録』●堀　忠三著

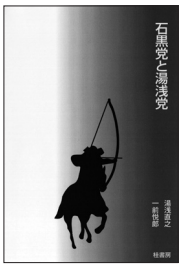
この地に縁もゆかりもなかった著者が、旅の途中に出会って魅せられてから、40年にわたり通い続けてフィルムに刻みつけた東北は岩手の奥地・北上高地の人びとと自然。標高700メートル、冬は氷点下20度も珍しくない厳寒の地に根を下ろし、働き、生きる人びとのなんと魅力的なことか。その表情の味わい深さ、しぐさが物語る豊饒さは、言葉では表せ得ない。

後に著者の撮影に同行してこの地を訪れた編集者の宮野芳一は言う。「大地を信じ自然と折り合いを付けながら、真摯に精一杯に、営営と生きてきた人びと。激変する時代環境のなかに生きてきた古老の表情を記録したのが本写真集だ」と。

地に足をつけ、時を積み重ねて満ち満ちた農民・農家・農村風景を収めるこの写真集には、もはやわたしたちが見ることができない、見るすべもない、打ち捨ててしまい忘れかけてしまった生の原点、いわば生（き）の生がある。

◆4320円・A４判・110頁・**一葉社**・東京・2015/10刊・ISBN・9784871960588

『石黒党と湯浅党』●湯浅直之／一前悦郎著



石黒氏と湯浅氏って何か接点があったの？書名から誰もがそう思うにちがいない。前者は倶利伽羅峠の戦いで源義仲に味方した越中国の在地領主である。後者も有名な「阿弖河荘上村百姓等片仮名書言上状」で知られる紀伊国の在地領主である。が、読み進めていくうちにその疑問も解ける。現在の富山県南砺市には湯浅姓の人々が多く住み、言い伝えによれば出自は紀伊湯浅氏だという。南砺市は中世では石黒荘弘瀬郷に該当し、石黒氏（藤原氏と改姓）の所領の一部であることから著者は石黒氏と湯浅氏とを結びつける。両氏の歴史を辿りつつ大胆な仮説をたてていく。要は鎌倉末期に湯浅一族内部の危機に際し石黒氏の招きに応じて一部が石黒荘弘瀬郷に移ってきたとする。詳細は読んでいただくとして、状況証拠だけでは何とも判断しがたい。たしかに鎌倉御家人は全国に移動しているので可能性は十分あるのだが、ほんのわずかな断片でいいから史料的根拠が欲しいところである。

◆1620・円・四六判・193頁・**桂書房**・富山・2015/7刊・ISBN9784905345862

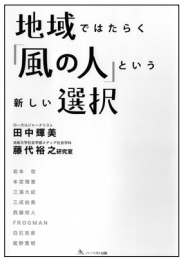
『琉神マブヤーでーじ読本　－ヒーローソフィカル沖縄文化論』●山本　伸著

戦後テレビのヒーローといえば「月光仮面」。変身、超人的能力、勧善懲悪の活躍で血涌き肉躍らされた。今、沖縄でローカルヒーローといえば「琉神マブヤー」。2008年琉球放送で放映以来、県内最高視聴率17.6％、各13回シリーズは今年で７年目に。年間150回を超えるキャラクターショーは１回千人、最大で２千人を集客。映画公開もされ、DVDも売れている。何が世代を超えてウチナーンチュ（沖縄人）を惹きつけるのか。その魅力をアンケートに求めると、笑い32％、方言29％、沖縄らしさ17％。主人公マブヤーは沖縄語で人間の身体に宿る霊魂、即ち人間の生命原理、沖縄に幸福、豊穣をもたらせてくれると伝えられる遥か東の海の彼方ニライカナイからやって来た。

ことほど左様に、沖縄の伝統文化・精神を体現したポップカルチャーであるからだ。その全ストーリー、解説、キャラクター、アクター、放送・上映データを収録する。ヤマトンチュにこそ観て欲しい。

◆2376円・A５判・253頁・**三月社**・東京・2015/8刊・ISBN・9784990775513

『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』●田中輝美著



「風土」という言葉があるように、地域には「風の人」と「土の人」がいる。外部から変化をもたらす風の人と根を下ろし活動する土の人。この両者がうまく混じり合い、新しい視点が生まれていく。

人口70万人を割り込み、全国で二番目に少ない島根県。ローカルジャーナリストの田中輝美と法政大学藤代ゼミ生がそんな島根に関わる８人の風の人を取材。存続が危うい離島の高校を甦らせた教育魅力化特命官。

ビジネスプランコンテストがきっかけでＮＰＯ法人を立ち上げたコーディネーター、365日公演に挑戦する劇団代表、医師、映像クリエーターなど、さまざまなジャンルの風の人が登場するが、葛藤を繰り返しつつ壁にぶち当たりながらも、人との出会いを大切にしてきた姿が浮かび上がる。

取材した側の学生たちの変化と本音も伝えられる。地方と都会といった枠に捉われない、日本の未来を面白くするヒントが 詰まっている。

◆1512円・Ａ５判・268頁・**ハーベスト出版**・島根・2015/8刊・ISBN・9784864561563

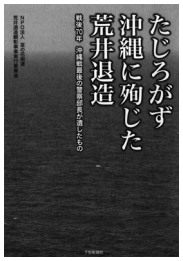
『出版業界版　悪魔の辞典』●能勢　仁著

試しに本書のあるページを開いてみると、そこには「改装」とあって「店舗の化粧直しを指すこともある。非効率な投資がほとんどである。」との記載があります。なんだか思い当たることもあって、笑っていいのやら嘆いていいのやら反応に困ってしまいます。アンブローズ・ビアスの有名な『悪魔の辞典』に範をとった本書は、本の流通に関わる人間にとって耳が痛かったり思わず目を背けたくなるような項目に満ち溢れています。冒頭の項目もそんな中のひとつに過ぎません。しかしそれらの言葉から得られるところもまた多いはずです。なぜこのように揶揄されてしまうのか、業界の中にいる立場からでは気がつきにくい様々な問題点を考えるきっかけにもなるでしょう。

後半には、本にまつわる箴言集や出版業界の消えた用語集もついています。書籍流通業界の裏側ものぞけますので、業界関係者でなくとも、本のことを色々と知りたい方には楽しんでいただけると思います。

◆1620円・四六判・174頁・**出版メディアパル**・千葉・2015/8刊・ISBN9784902251999

『たじろがず沖縄に殉じた荒井退造　－戦後７０年　沖縄最後の警察部長が遺したもの』● NPO法人「菜の花街道」荒井退造顕彰事業実行委員会編著



沖縄県糸満市摩文仁の平和公園に建つ「島守の塔」。「沖縄県知事島田叡 沖縄県警察部長荒井退蔵 終焉之地」と連名で刻まれている。戦後70年の今年、その荒井を顕彰すべく、出身地栃木県宇都宮市清原でフォーラムが開かれ、「清原の志士、沖縄に殉ず－沖縄では知らない人はいないが、内地ではほとんど知られていない人－」と題された。敗戦色濃厚な18年、沖縄に赴任した荒井は、知事や県首脳らが逃避してしまった中、敗戦の年に新たに就任した島田知事と手を携え、住民の県外や県北部への疎開に奮迅奔走する。それにより救われた命は20万にも上るといわれる。だが二人は米軍の沖縄戦終了の1週間前、壕を出たまま行方不明となる。自決したものと思われる。フォーラムの講演記録を基に、唯一の研究者といえる『沖縄の島守』の著者田村洋三氏の書簡、遺族による著作や新聞記事、ゆかりの人物の証言など数少ない資料により、知られざる荒井の足跡と信念に光を当てる。

◆1404円・四六判・211頁・**下野新聞社**・栃木・2015/9刊・ISBN・9784882865957

地方小出版 流通センター　ジャンル別 新刊案内

2015年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆Ｂｏｃｋｅｔ（ぽけっと）　第２号　寿郎社編　Ｂ５　104頁　１０００円　寿郎社　［北海道］　978-4-902269-82-6　15/09

◆ｆａｕｒａ　４９　大橋　弘一編　Ａ４　80頁　１０２８円　ナチュラリー　［北海道］

売行良好書

期間：2015年9月16日～10月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あたしとあなた』2160円・ナナロク社　(2)『天使の涎』1500円・邑書林　(3)『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』864円・リーブル出版　(4)『ここすぎて水の径』2592円・弦書房　(5)『百歳までの読書術』1836円・本の雑誌社　(6)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404円・書籍情報社　(7)『新・ベターホームのお料理一年生』1512円・ベターホーム出版局　(8)『原発に侵される海』3780円・南方新社　(9)『点滴ポール　生き抜くという旗印』1512円・ナナロク社　(10)『山陰駅旅』2000円・今井出版　(11)『ダメなものはダメと言える《憲法力》を身につける』1080円・寿郎社　(12)『東西寄席演芸家銘鑑　総天然色』2160円・東京かわら版　(13)『自殺の内景』2700円・無明舎出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あたしとあなた』2160円・ナナロク社　(2)『本の雑誌　３８９号』720円・本の雑誌社　(3)『東西寄席演芸家銘鑑　総天然色』2160円・東京かわら版　(4)『東京かわら版　１１月号』500円・東京かわら版　(5)『百歳までの読書術』1836円・本の雑誌社　(6)『深夜百太郎　入口』1620円・ナナロク社　(7)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』823円・吉備人出版　(8)『東丹沢登山詳細図全１２０コース』926円・吉備人出版　(9)『奥多摩東部登山詳細図』823円・吉備人出版　(10)『古本屋ツアー・イン・神保町』2160円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『探訪　比企一族』1728円・まつやま書房　(2)『鬼酣房先生かく語りき』1620円・青磁社　(3)『駿河伊豆の城と中世』2376円・羽衣出版　(4)『少年日本史』3240円・皇學館大學出版部　(5)『考える人・鶴見俊輔』842円・弦書房　(6)『目で見る新宿区の１００年』9990円・郷土出版社　(7)『芦屋の和洋館よ　とわに』2160円・澪標　(8)『至誠の人　楫取素彦』1620円・上毛新聞社　(9)『氷川丸ものがたり』1512円・かまくら春秋社　(10)『棟方志功の原風景』3456円・津軽書房　(11)『山梨の古城』2592円・山梨ふるさと文庫

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

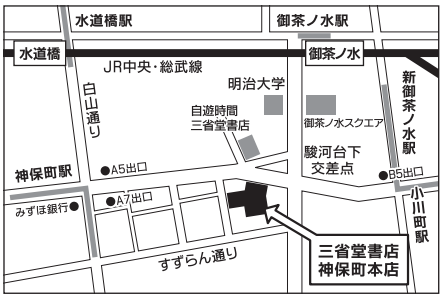
▼今年の第63回菊池寛賞に、半藤一利氏や吉永小百合さんとともに、今年40周年を迎えた**本の雑誌社**が選ばれ、受賞しました。「従来の書評誌になかったエンターテインメント中心の書評、ユニークな特集、個性的な執筆陣などで日本の出版文化に独自の存在感をアピール」と評価されました。

▼11月に「第3回古代歴史文化賞」が発表になりますが、それに併せて**「古代歴史文化賞　古代出雲ブックフェア」**が都内各地の書店で開催されます。三省堂書店神保町本店が11/4～11/30。紀伊國屋書店新宿本店が11/1から11/30。ジュンク堂書店池袋本店が10/24～11/23。八重洲ブックセンター八重洲本店が11/1～11/30。古代歴史文化賞受賞作品の他、古代出雲についてまとめた代表的な書籍が展示されます。**山陰中央新報社刊【神在月】【古事記1300年】、今井出版【山陰の神々】、ハーベスト出版【やさしく学べる古事記講座】**等々。写真集【神在月】の写真パネルも展示予定。この古代歴史文化賞は、最近発行された書籍のうち、日本の古代世界を学術的基盤に立ちながら、一般読者にわかりやすく書かれたものを表彰するもの。主催は、島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10:00 AM～8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。